

大法輪

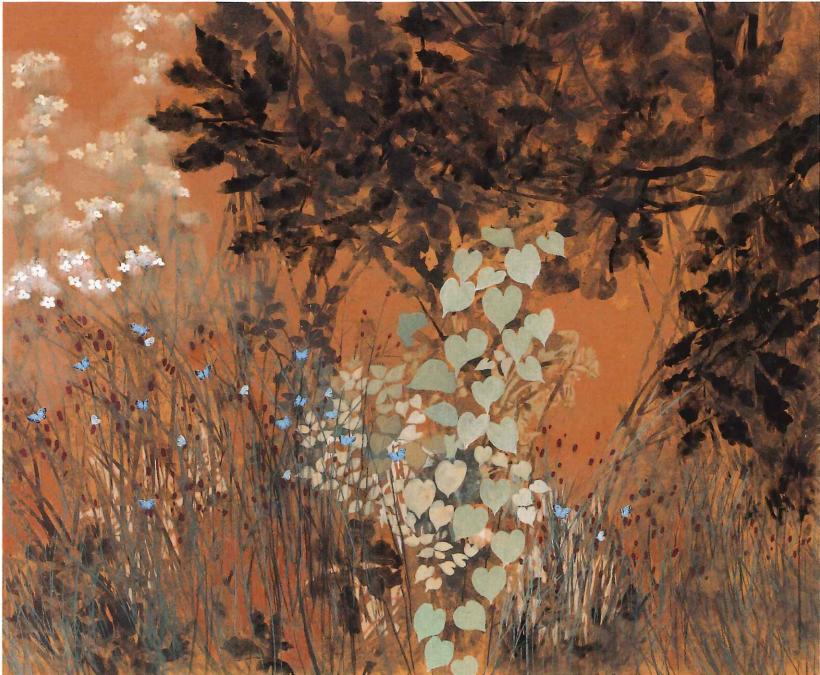
特集||葬儀・先祖供養の疑問に答える

〈法話〉「いのち」を生かす葬儀とご法事 | 東京都文京区
淨心寺住職 佐藤雅彦

【葬儀にまつわる疑問】自分の葬儀について/身内が亡くなったら/遺体の安置・納棺/戒名・法名について/葬儀の形態と実際/会葬者のマナー

【先祖供養にまつわる疑問】年回法要/お墓/仏壇/お盆・お彼岸について

『見聞宝永記』を読む|池上光洋/〈講演〉佛教倫理思想と慈悲|島蘭 進



サンクチュアリ 小西 通博

遺体の安置・納棺について



まつもと ゆうき
松本 勇輝

全日本葬祭業協同組合連合会
専務理事

① 葬儀までのご遺体の保管はどこでしてくれのか?

葬儀までのご遺体については自宅で安置される場合もありますし、寺院、葬儀社各社や葬祭ホール等でご遺体をお預かりすることもございます。

最近では、ご遺体を保管だけするような事業者もございますが、いずれにせよ大切なご家族のご遺体ですのでしつかりとした事業者にお願いすることが重要です。その後に行う葬儀のことも踏まえ安心して相談できるところを選びましょう。悪質な事業者もいますので注意が必

要です。

② 湯灌とは何か?

湯灌とは、本来、たらいに入れた水に湯を足して温度調節した逆さ水で、ご遺体を洗い、清めることを言います。また、入浴後にはきれいな服を着せ、男性なら髭をそり、女性なら死化粧が施されます。湯灌は、通常、葬儀社や湯灌専門業者によつて行われますが、ご遺族が自ら行う場合もあります。

現在は、湯灌の代わりに故人の体をアルコールで清め

る「清拭」という儀式が取り入れられるようになり、湯灌を行わないことも増えてきました。昔は自宅で亡くな

ることがほとんどでしたが、現在は病院で亡くなることが増えているという時代の流れが背景にあるようです。

③ 枕飾りとは何か?

故人が亡くなつてからお通夜やお葬式までの間、遺体は自宅や葬儀社の安置所などで安置されます。その際、枕元に簡易的な祭壇を作つたものが枕飾りです。

枕飾りは白木の台等に白布をかけ、香炉、燭台、花立ての三具足を備えるもので、その他に水、鈴、枕、飯、枕だんごなどが必要です。このとき香炉には線香、燭台にはろうそくを、花立てには桜を、それぞれ一本ずつ立てます。

神式では案と呼ばれる机に食べ物や榊などを供えます。キリスト教式では枕飾りの決まりは特にありません。一般的に白い布を小机にかけ、聖書や花、ろうそくや十字架を置いたりします。葬儀社に相談してみるとよ

いでしょう。

④ 死化粧とは?

弔問客に対して、故人の最後の印象を少しでも美しいものにしようという家族の心遣いが死化粧です。

まず長く病床にいてやつれが目立つときは、両ほおに脱脂綿を含ませ、ふつくらと見えるように含み綿をします。女性ではほお紅、口紅など薄く化粧をほどこしたり、男性の場合では髪を整えたり、髭をそつたりもします。また、爪なども切りそろえたりいたします。

⑤ 死装束とは?

納棺の前に死者に着せる衣装のことを死装束といいま

す。以前は故人との関係ある方が用意し遺族が着せていましたが、現在では葬儀社が準備し、ご遺体に着せます。また、故人が生前好んだ着物や浴衣を左前に着せた

第一部 葬儀にまつわる疑問

り、納棺の時に葬儀社が経帷子を遺体にかけるだけのこともあります。ただし、浄土真宗では故人に死装束を着せることはありません。

なお、死装束一式とは、経帷子、笠、杖、白足袋、わらじ、頭陀袋、六文錢、数珠、三角頭巾、手甲などになります。

(6) 末期の水とは?

末期の水とは、医師から臨終を告げられたとき、親しい方が本人の口に含ませる最期の水を末期の水と言い、死に水とも言います。新しい脱脂綿やガーゼを割り箸の先に固定したものや、新しい筆先に水を含ませて、家族等近親者が亡くなつた人の唇につけて口を潤します。

現在では仏教に限らず行われていますが、末期の水はお釈迦様が臨終の際に水を求めたという言い伝えからきたもので、死者の蘇生を願い、それが無理でもせめて死後の世界で渴きに苦しむことがないようにと祈る、故人の最後のはなむけともいえる儀式です。

エンバーミングとは、ご遺体を衛生的に保ち、生前のきれいな姿に復元したりする遺体衛生保全処置のことです。

生前お元気だったころの面影に近づける施術を行つた後は、お身体のアフターケアをすることによって、ほとんどの場合、ドライアイスを使用せずにその状態を保つことができます。ご遺族と故人が、安全で衛生的にそして時間にとらわれず、直接故人に触れてお別れをしていただくための癒しの技術とも言われています。

突然の事故や長い間病気を患つて亡くなられた場合、生前のお姿に近い状態にし、ご遺族が落ち着いた状態でお別れをすることが可能となりますので、少しづつですがエンバーミングを選択する方も増えているようです。

(8)

棺桶には、どのような種類があるのか?

故人の遺体を納めるのが棺桶です。棺やお棺とも言われます。日本の火葬率は99%以上であるため、棺桶は可燃性のものが使用され、一般的には木製の棺になります。最近では環境に配慮したエコ素材ということから、ダンボール製の棺も登場しています。棺の種類は多く備格もさまざまです。

棺桶は、棺、柩等の文字が使用されています。諸説

ありますが、一般的には遺体が納まつていらない状態を「棺」、納まつた状態を「柩」とする説が有力です。それは「柩」の「久」という字は人が入れ物に入っている状態を表しているのです。

棺の素材は木製のほかに、先に述べたダンボール等があります。棺の種類は大きく分けて天然木棺、フランシユ棺、布張棺、彫刻棺等がございます。最近は、布張棺を中心を選ばれているようです。

もう一つの親鸞像『口伝抄』講義

義盛幸規著

四六判／320頁 2,159円

【歎異抄】にはない親鸞の行実に加え、【歎異抄】と同じ逸話を異なる角度から著した『口伝抄』。そこには別の親鸞像が現れる。親鸞の曾孫・覚如が集めた親鸞の言行録を丁寧に読み解きつゝ真宗の教えを解説。(全文文・現代語訳付)

『安心決定抄』を読む

佐々木隆見著

四六判／226頁 1,836円

親鸞聖人が幾度も書写し、門弟達に信仰の指南書としてすすめた聖覚の『唯信抄』を、綿密に現代語訳を付しながら解説。親鸞の信仰・思想の展開も解明。『淨土真宗の(聖教)』

大法輪閣
TEL150-0011 東京都渋谷区東2-5-36
TEL03-5466-1401 FAX03-5466-1408
(価格税込)
210円

信仰についての対話I・II

安田理深著

四六判／240・224頁 各2,160円

眞に「親鸞教学」と言いうる信念内容を、曾我量深師から受け継ぎ、自己自身の思索で肉付けした安田理深師と老求道者の対話。